

# 信頼され愛される地域医療を目指して

千葉県東庄町長

岩田利雄



東庄町は千葉県の北東部に位置し、かつては水運で栄えた利根川が町の北辺を流れる自然豊かな人情味あふれる町である。年間の平均気温も安定しており、農産物を冬でも作ることができる暖かい所であり、地の利を生かした農業が基幹産業である。平成29年4月1日現在の人口は1万4,388人、高齢化率は35.2%で、人口減少と高齢化が進んでいる。

また、総合戦略策定のために実施した町民アンケート調査では、町が優先して改善していくべき施策として「医療の充実」を回答した方が最も多く、次いで「高齢者福祉サービス」が多く、全体的に福祉の充実を望む声の大きい結果になっている。今後さらに高齢化が進展していく状況の中で、当町が進めてきた保健・医療・福祉・介護のトータルケアの期待はさらに高まるものと認識しており、ここに本町の今までの取り組みを紹介し、今後の課題や市町村長の役割について述べることにする。

# message



国保東庄病院は、平成8年に現在地に新築移転し、これを契機に将来を展望した病院改革を断行した。この改革を行う上では当時、全国自治体病院協議会の会長であった、国保旭中央病院の諸橋先生のお力添えをいただき、厳格な経営診断から徹底的な改善を行った。また、人事間交流を行うことにより医療技術の向上や医療体制の充実も図ることができた。この病院間の連携は、今でも地域の皆様と国保東庄病院を結ぶ大きな信頼となっている。

現在、国保東庄病院では、内科・小児科・整形外科を診療科目とし、24時間体制で救急患者の受け入れを行っている。また、入院病床は80床（一般32床・療養48床）で地域に密着した病院として、いつでもできる限り幅広く診るという「かかりつけ医」としての役割を担っている。今後、さらなる高齢化の進展により、地域医療に重要な役割を果たす総合診療専門医の育成を図ることが、地域医療の医師確保につながることを期待し、育成を図っているところである。

さらに、国保旭中央病院（診療科目40科、病床数989床）の支援により、医師の派遣を受けるとともに、同病院（基幹病院：センター病院）のサテライト的な病院としての機能を果たしている。また、電子カルテ導入は、両病院でのデータ共有により治療方針の相互理解に役立っている。これからの国保直診は、それぞれの地域や病院の規模により、担う役割を明確にすることで、広域的な連携を図っていくことが必要であると考えます。



本町は千葉県内でも先駆的な取り組みとして、平成10年に「東庄町健康づくりの里構想」を策定し、保健・医療・福祉の三位一体となった事業展開を目指し

た。平成11年に国保東庄病院と隣接して東庄町保健福祉総合センター（健康福祉課・保健センター・地域包括支援センター・訪問看護ステーション・デイサービスセンター）を開設し、また、平成12年には療養型病床・リハビリスペース・社会福祉協議会・シルバー人材センター・ボランティアセンターを併設し、保健・医療・福祉・介護のトータルケアが実現した。

病気にならない、病人をつくらないためにはまず、予防医療が大切と考え、予防接種は法定接種となる前に、町独自で積極的に無償化を進め、また、医療費助成では県内でいち早く、18歳までの医療費を無償化した。さらに、重症化する前に病気を発見しようと、各種検診を無償化し、町民の健康づくり推進のため、検診や健康教育・相談などを計画的に実施している。特にがん検診では、内視鏡検査や肺のCTにより精度と魅力を高めるとともに、25歳でのピロリ菌検査を実施している。また、35歳以上の町民は国保東庄病院で日帰りドックを1万円、1泊コースを2万円（消費税別）で受診できる制度を整えた。

こうした地道な取り組みにより、平成26、27年度の後期高齢者一人当たりの医療費が、千葉県内54市町村で最も低い町となった。また、特定検診の受診率も52.2%と高い数値を示しており、町民の健康に対する意識も高まっていると実感している。町民の皆様には、さらに「自分の健康は自分でつくる意識」を高めてもらうよう、健康づくりの施策の充実をさせ、また、国保東庄病院で総合診療専門医の育成を図りながら、地域包括医療・ケアの中心的な役割を果たすことで、「地域の安心の基盤」となるよう努めていきたい。

これまで支えてくれた多くの皆様のたくさんの思いを大切に、信頼され愛される地域医療を目指し、関係スタッフと連携して取り組んでいきたい。